

全学教養科目（2019年度以降第1学年次入学者適用）

区分	科目名	履修開始メスタ	1	2	3	4	5	科目概要
			仏教精神に基づいて、豊かな人間性、確固たる倫理観、智慧と慈悲を身につけている	仏教精神に基づき、人生における諸問題に対応する力をもっている	社会人として必要な教養や知識・技能を身につけている	自己をみつめ自己を理解する力、周囲の環境や人間を理解する力を身につけ広い視野で思考できる力をもっている	専門領域に関する知識や技能を修得し、問題把握力と問題解決力	
人間を 考える	くらしの中の仏教	1	○	○	○	○		<p>仏教が日本に伝来して約1,500年、あたり前のようにすごしている我われの生活の中には、仏教に関わる「言葉、風習、儀礼、文学、美術、造形」などが数多く認められる。それは仏教が日本人の生活文化に浸透している証でもある。</p> <p>本講義では、生活の中で仏教と関わる題材を示しながら、本来のインド仏教とは異なり、日本で展開した独自の仏教観を通し、それらがいかにか日本人の心の拠り所となり、人格を形成させ、ひいては日本文化を醸成してきたのかを学ぶ。</p>
	ことばと文学	1	○		○	○		<p>文学とは「ことば」を介して、人間の様々な側面を深く掘り下げた、種々の作品が形成する、人間とは何か、をめぐる探求の跡であると定義することができる。当科目では、文学を生み出す「ことば」の問題を掘り下げつつ、人間学としての文学の様々な特徴を紹介してゆく。</p>
	心の世界を考える	1	○		○	○		<p>人間は、心を通して世界を体験している。心が動くことで人生は豊かになるが、一方で、心が動くことで苦しみが生まれることもあるかもしれない。</p> <p>この授業では、心とは何か、心は世界をどのように感じて・見て・聴いているのか、心はどのようにさまざまな経験を記憶するのか、感情は人間にどのような影響を与えるのか、心はどのように発達するのか、「私」と心はどのような関係にあるか、など心まつわるさまざまなトピックスを通して、心の動きについて、心理学の観点から考える。</p>
	人間の仕組みと活動	1	○		○	○		<p>人の身体の基本的な構造と機能について概説する。人が健康な生活を行うために必要な構造について、またその構造と関連する身体活動・精神活動について解説する。人が社会の中で参加活動をしていく中で、障害が生じた場合のリハビリテーションについても人の体の仕組みと関連させながら講義する。これらの内容は広範囲に渡るため、授業内容についてはテーマを絞ったもので実施する。</p>
基礎領域	前近代の世界	1	○		○	○		<p>現代日本の繁栄は、近代以降の歴史的な歩みのなかで説明されることが多い。しかし社会そのものあり方やそれに起因する価値観など、前近代からの影響（遺制）を強くうけている面も多くある。この点について、日本・東洋・西洋の観点から前近代社会の特色を検討し、現代社会のありようを考える基礎としたい。</p>
	近現代の世界	1	○		○	○		<p>近現代の歴史は、どの地域に重点を置くとしても、世界規模で展開する。一国はもちろん、東洋や西洋という広くくりで見ると、世界の動きと連動して歴史が繰り広げられることを意識しなければならない。その意味で、この講義では、日本・東洋・西洋のいずれかの地域を中心としつつも、近現代の歴史が世界規模で動いているという点に主眼を置いて、近現代史の世界を検討する。</p>
	宗教と人間の歩み	1	○		○	○		<p>宗教の歴史的な展開とその意義について学ぶ。三大宗教に代表される宗教の役割とは何なのだろう。多様に変化する社会情勢の中で、宗教はどのような変容を伴い今日に至るまで信仰されているのだろう。宗教がいかなる背景によって誕生し、どのような歩みを経てきたのか。さらには宗教が生み出した様々な宗教文化は人々の暮らしにどのような影響を及ぼしてきたのか。宗教を時代や社会の展開といった歴史的な歩みのなか位置付け考える。</p>
	病と人間の歩み	1	○		○	○		<p>医療は、知識や技術のみならず、社会の出来事や倫理、価値観によって形づくられている。医療の歴史を振り返ることによって、時代ごとの医療の形成について概説する。このことを踏まえて現代の医療について、医学、ヘルスケア、倫理などいろいろな面から考える。これらの内容は広範囲に渡るため、授業内容についてはテーマを絞ったもので実施する。</p>
人間と 社会	日本国憲法	1	○		○	○		<p>憲法は、大きく統治機構と人権保障の2つの部分から成っている。講義の前半は統治機構について、後半は人権保障について、中心に進めていく。とりわけ、人権保障については、人間の尊厳にかかわる基本的人権について焦点化し、考察する。いずれも、基本的な事項を説明したのち、学説の対立点や判例・事例及び近年の憲法をめぐって生じている問題について取り上げながら、より深く憲法について考察する。</p>
	法律を知る	1	○		○	○		<p>社会秩序の形成と人々の幸福に寄与するとされるルールとしての法について考える。道徳と法、自然法と実定法、権利・人権と法などの「法とは何か」に関わる基本的テーマをおさえたうえで、憲法や民法、刑法等の基礎にある考え方について講義する。とかく法律は、特に日本の社会では自分たちを縛りつける堅苦しいものにとらえられがちであるが、法の支配や立憲主義の理念とあわせて、むしろ私たちの生活や市民社会を守るためのものであるという法の側面を明らかにする。</p>

区分	科目名	履修開始メスター	1	2	3	4	5	科目概要
			仏教精神に基づいて、豊かな人間性、確固たる倫理観、智慧と慈悲を身につけている	仏教精神に基づき、人生における諸問題に対応する力をもっている	社会人として必要な教養や知識・技能を身につけている	自己をみつめ自己を理解する力、周囲の環境や人間を理解する力を身につけ広い視野で思考できる力をもっている	専門領域に関する知識や技能を修得し、問題把握力と問題解決力	
人間と社会	世界と日本の政治	1	○		○	○		現代の日本社会と世界における主要な政治的論点、問題点をとりあげる。特に第二次世界大戦以降の国内外における政治的力学のさまざまな変化と照らし合わせて、現代の日本社会と世界の現状を考える。東西冷戦とその終焉、アメリカの覇権の弱体化、民族紛争の噴出、「イスラム過激派」によるテロの横行、グローバル資本の支配、統合と分裂のヨーロッパ、移民・難民問題といった世界的規模の現象と、55年体制とその終焉に代表されるような日本国内でのさまざまな政治的変容をリンクさせる視点が必要であろう。
	くらしの中の経済	1	○		○	○		ミクロ経済学やマクロ経済学で用いられる基本概念や専門用語の理解を通じて、テレビや新聞、インターネットなどから私たちが日々得ている経済的情報を適切に解読することをめざす。基本的な市場メカニズムや、政府の金融政策や財政政策、雇用や賃金、福祉といったテーマに関して、できる限り身近な事例に即して説明する。私たちの生活を成り立たせていると同時に脅かしている経済的メカニズムを理解すると同時に、日本経済の今後の課題について考える。
	個人・集団・社会	1	○		○	○		諸個人が社会を形づくると同時に、社会が社会化の過程を通じて諸個人を形成する。「私とは何か」を考える際には、社会的存在としての「私」を抜きにしては考えられない。しかしまた、「社会」は単一の実在ではなく、さまざまな集団が重層的に「私」を包含しつつ規定している。 本講義では、家族や地域社会、職場集団、ボランティアグループ、趣味のサークル、市民運動団体等のさまざまな中間集団と、個人そして全体社会との関係やその変容を探ることによって、現代社会の実相を明らかにする。
基礎領域	数の世界	1	○		○	○		数学の基礎である数について、その体系や身近な応用例などを中心に、数の世界について概説する。私たちの日常には数があふれている。スマートフォンやインターネットなどでも数は重要な役割を果たしており、数の概念が存在しない世界を想像することは難しい。そこで、身近にあふれているが気づいていない数についての考察、数が織りなす素晴らしい世界の探求及び数を通して見えてくる自然界の真理について追求していく
	物質の世界	1	○		○	○		宇宙を構成する1つの天体である地球をベースに物質の世界について概説する。地球は様々な物質から成り立っており、これら物質からなる地球は様々な事物・現象を有し、我々の科学に対する興味の対象となってきた。 本講義では、地球を構成する物質に着目し、地球でおこる様々な現象について考察していく。日常生活に潜む規則性や法則、原理についての気づきを大切に、実際の事例やメディアを利用して学んでいく。
	宇宙を考える	1	○		○	○		我々が住む地球を含む太陽系から遠方宇宙に至る様相を科学的な観測を基礎として現在の宇宙の姿がどのように形つくられてきたのかを解説する。基礎的な内容から説明を積み重ねる形で講義を進めていく。さまざまな画像を用いることによって視覚的にも理解しやすいように宇宙の様相を紹介していく。受講者自らが考えながら宇宙に関する知識を整理して理解を求めらる。
	生物の世界	1	○		○	○		生命の始まりから生物の進化を通して、生物の世界について総合的に概説する。生命の始まりから生物の進化について、始生代（太古代）からの地球史とともに解説する。 また、現在の生物について、マクロ的視点、ミクロ的視点双方からの視点から説明をしていく。総括として、生物の生き残り戦略、生物の不思議等のほか、生物に関するトピックスを踏まえ、生物の世界について総合的に説明していく。
	自然と地理	1	○		○	○		私たちが生活する地域は、現在でも多様な自然的基盤の上に成り立っている。自然的基盤はさまざまな自然的要素が関係しあいながら法的に則って時間的に空間的に変化していく。 一方で、人間は自然的基盤を超えて、またその中で異なる経済的、社会的、文化的な地域を作り出し、歴史的に空間的に多様な地域を形成してきた。この自然的基盤と人文的な地域の多様な関わり合いを「環境・風土」をキーワードに考えてみたい。
	食と栄養	1	○		○	○		人が生きていくために、「食べる」ことは欠くべからざることである。「食」とは、生活活動や健康の維持・増進に必要な物質（栄養素）を外界から取り入れて、これを利用することである。食品やその中の成分である栄養素がどのように人の体の中で利用され、また影響しているかについて、食品や食事と関連づけて講義する。さらに、人の年齢、生活環境と「食」との関係概説する。

区分	科目名	履修開始semester	1	2	3	4	5	科目概要
			仏教精神に基づいて、豊かな人間性、確固たる倫理観、智慧と慈悲を身につけている	仏教精神に基づき、人生における諸問題に対応する力をもっている	社会人として必要な教養や知識・技能を身につけている	自己をみつめ自己を理解する力、周囲の環境や人間を理解する力を身につけて広い視野で思考できる力をもっている	専門領域に関する知識や技能を修得し、問題把握力と問題解決力	
人間を 考える	仏教の人間観と死生観	5	○	○	○	○		<p>全学共通科目の「ブッダと法然」(1セメ)で学んだ基礎知識をふまえ、ブッダと法然をはじめとする仏教徒たちが遺した資料を示しながら、彼らが仏教の価値観から人間をどのように定義したのか、またその人間は何を考え、どのように行動してきたのかを学ぶ。</p> <p>また仏教の人間観とは死生観とも関わっていることから、誰もが迎える自己と他者の死と真摯に向き合うことで、これからの自分の生き方(生きる目的・意義・ものごとの考え方、身の処し方)を主体的に考える。</p>
	人間と思想	5	○	○	○	○		<p>大学で哲学や思想について学ぶとき、多くが西洋についてであるが、その一方で、東洋で育まれた思索が、社会に生き、自然を前にするとき、私たちともにある。</p> <p>この講義では主に、インドや中国、そして日本で生まれ洗練されてきた考えかたを振り返る。このとき、ドイツ近代の考えと思ってきた思想が、インドで誕生したものであったり、英国の成果とされてきたものが、江戸期の国学者の議論であったり、また逆に、中国の伝統だと思われた自然観がギリシャであったりする。人間の考えることの多様性と共通性を感じ取るのが本講義の目的である。</p>
人間の 歩み	人種・民族・国家	5	○		○	○		<p>「国民国家(Nation State)」という国のあり方は、19世紀にヨーロッパで成立して以降、今現在に至るまで、近代国家の典型とされている。異なる人種や民族が一つの国家に統合されることは、言語や宗教・文化など多くの摩擦や軋轢など様々な問題を生じさせることにもつながる。</p> <p>この講義では主には近代以降の国家のあり方を考えるなかで、そこに包摂される人種や民族について考え、我々が日頃意識することの少ない人種や民族、言語や宗教など社会を構成する諸要素とその枠組みを考えるきっかけとする。</p>
	世界の文化	5	○		○	○		<p>世界には様々な文化が存在する。多様な文化を知ること自体、知見を増やし視野を広げるうえで有意義なことではある。しかし文化を学ぶうえで重要なのは、その文化の特殊性を知るだけでなく他の文化との共通性を、またその文化が成立し変容してきた過程を、時代性や地域性を考慮しながら考えることにある。世界の様々な文化を紹介しながら、われわれが自分たちの文化の再考と、文化を考えるとという汎用的な力を養いたい。</p>
	人間と経済活動	5	○	○	○	○		<p>経済、あるいは経済活動というと、現代社会において高度に発達した経済に関して、細かな数字や、難解な経済理論を想起し、苦手に思う者が多いかもしれない。しかし歴史的には、人間が原始の時代から行ってきた生存に必要な物資を採取・生産し、加工・交換するという営みも経済活動にほかならない。そう考えると人間が生きていくことそのものが経済活動ということもでき、社会を見ようとする時に避けて通る事はできないものといえる。</p> <p>この講義では、われわれ人間の社会が発展するなかで、どのような経済活動が行われて来たのか、また経済活動がどのように移り変わってきたのかを考え、経済や経済活動に目を向けるきっかけとしたい。</p>
人間と 社会	世界のニュースと日本	5	○	○	○	○		<p>この授業では、今現在世界で起こりつつあるニュースを取り上げ、日本との関わりという視点から考える。政治・経済、社会、文化、スポーツ、芸術、ポピュラー・カルチャー等、様々な世界のニュースが伝えられているが、直接日本と関わりのあるニュースもあれば、直接的に関わりはないものの、日本という文脈に置き換えてわれわれが真剣に考えなければならないニュースも多々ある。単に世界のニュースを知るというだけではなく、そのニュースをもとに受講生の批判的思考力(critical thinking)を養いたい。その意味では、受講生の積極的な授業への参加が求められる。ニュース資料(文字・音声・映像等)は英語のものを使用し、授業中での基本的な使用言語は英語である。</p>
	Global English Communication	5	○		○	○		<p>この授業では、世界語としての英語の観点から、多文化理解のコミュニケーション・スキルとしての英語の高度な運用能力を養成する。単なる日常会話ではなく、古今東西にわたるテーマを取り上げ、リーディング、ライティング、スピーキング、リスニングの四領域にわたり、他者の考えを正確に理解するとともに、自身の考えを他者に的確に伝えることを目指した総合的な英語学習を行う。授業での使用言語は英語で、日本語使用は厳禁であり、受講にあたってはTOEIC 500点以上に相当する英語力を保持していることが求められる。</p>
	現代社会と福祉	5	○		○	○		<p>あとを絶たない子どもの虐待、死に場所を求めて「漂流」する高齢者、制度の谷間で居場所を失う障害者、若者の非正規雇用やワーキングプアなど、格差と貧困は子どもから若者、高齢者まで広がり深刻化の一途を辿っている。こうした「格差社会」からの脱却に向けて、人びとが安心・安全を実感できる生活の構築に向けた社会福祉のあり方が求められている。</p> <p>本講義では、今日の社会問題からあらためて社会福祉のあり方を考える。</p>

区分	科目名	履修開始メスター	1	2	3	4	5	科目概要
			仏教精神に基づいて、豊かな人間性、確固たる倫理観、智慧と慈悲を身につけている	仏教精神に基づき、人生における諸問題に対応する力をもっている	社会人として必要な教養や知識・技能を身につけている	自己をみつめ自己を理解する力、周囲の環境や人間を理解する力を身につけ広い視野で思考できる力をもっている	専門領域に関する知識や技能を修得し、問題把握力と問題解決力	
応用領域	人間と社会							
	情報・メディアと社会	5	○		○	○	○	情報の量や質、さらにそれらの情報を伝達するメディアの種類や様式は、社会の変化とともに大きく変容してきた。社会の変化とともに情報・メディアが変化すると同時に、情報・メディアの変容が社会のあり方を変えてきた。 本講義では、活字から音声、映像へと至るコミュニケーションメディアの変遷を概観したうえで、インターネット時代である現代の情報・メディア環境の特質や問題点を取りあげる。また、メディアと世論形成、ジャーナリズムのあり方等の問題について考えることを通して、メディア・リテラシーの涵養をはかりたい。
	教育事情を知る	5	○	○	○	○		いじめや不登校、配慮を要する児童・生徒との向き合い方など、学校教育を取り巻く問題は多種・多様である。また、こうした社会情勢を踏まえ、各教科で指導すべき内容や指導法も変化していく。 本講義では、これら教育事情に関するトピック（担当教員の専門分野に関する内容）を取り上げ、問題の背景、学説や実践事例を解説していく。また、それらについての自分の考えを他の受講者と議論し、理解を深める。
	人間と自然							
	生命を考える	5	○	○	○			人が生きていくためには、恒常性が保たれている必要がある。恒常性とは、生物がさまざまな環境の変化に対応することである。恒常性を維持するためにおこなわれている物質代謝（人の体の中で起こっている化学現象）、命を繋いでいくための遺伝、そして外敵から生命を守る手段である免疫の3つのテーマについて概説する。人が生きていくために持っている極めて合理的なシステムを理解できるよう出来るだけ平易な表現を用いて講義する。
	エコロジーを学ぶ	5	○	○	○	○		科学としての生態学として始まったエコロジーは、その後生物とそれをとりまく環境との関係を取り扱う学問に限定されることのない、広範な社会的、政治的、経済的、文化的な思想や活動を包含することとなった。 本講義では、科学としてのエコロジーの展開を扱うとともに、可能な限り、特に1960年代以降に展開した環境保護や近代科学技術文明批判の思想や運動、循環型社会の構想、「持続可能な開発」をめぐる議論等に言及し、エコロジーの全体像を提示することとする。